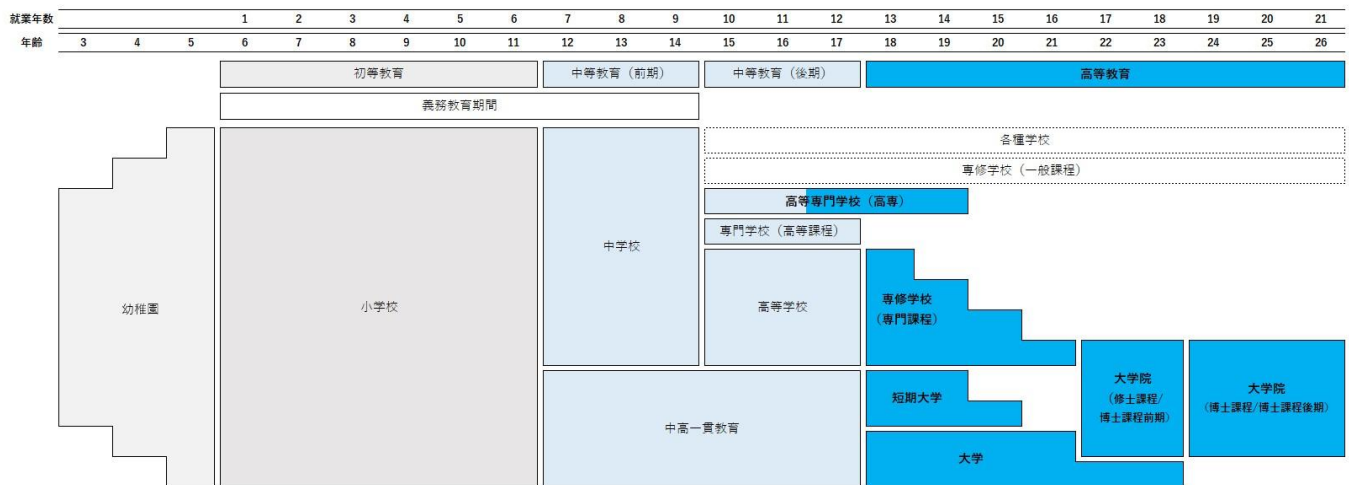


# 受験ガイド



## 留学生を受け入れている日本の高等教育機関

日本で留学生を受け入れている高等教育機関の種類は全部で7つ。教育目標や卒業後の進路も学校によりさまざまです。あなたが進学したい校種をここで確認しましょう。



外国人留学生を受け入れている日本の高等教育機関には、「大学院」「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」「専門学校」「高等専門学校」の7種類があります。いずれの学校も在留資格「留学」が取得できる学校です。それぞれ取得できる学位や修業年限、入学資格、特色、かかる費用が異なるので、自分の目的に合った学校を選びましょう。

### ● 日本の「教育システム」と「高等教育機関の種類」

日本の高等教育は、6年間の初等教育および前期3年間、後期3年間の中等教育を合わせた12年間を修了してから始まります。

日本において高等教育機関に分類される学校は、「大学院」「大学」「短期大学」「専門学校」「高等専門学校」、そして、2019年度より新しく設置される「専門職大学」「専門職短期大学」の7つです。校種により異なりますが、国が設置する「国立」、地方公共団体が設置する「公立」、その他学校法人や株式会社などが設置する「私立」の学校があります。日本の場合、その多くが私立の学校です。

国立、公立と私立の学校の違いのひとつに「費用」があります。

入学金や授業料など進学にかかる費用が、国立と公立の学校の場合は国などが定めた基準値があるため、比較的安く設定されていますが、私立の学校の場合は、入学する学校や学ぶ分野により大きく異なります。

そのため、一見私立の学校はとても費用がかかるように見えますが、多くの学校では奨学金をはじめ、学費の免除や減免制度など費用をサポートする制度が用意されているので、行きたい学校が決まったら、奨学金などのサポート制度も調べてみましょう。

高等教育機関に限らず、日本の教育機関のほとんどが4月～翌年3月までの1年間で1学年としています。そのため、入学試験は9月頃から始まります。

試験方法は、大学の一部で共通試験を実施する場合がありますが、筆記試験や面接試験などの学校独自の試験が主です。試験内容や科目は学校により異なるので、志望校が決まったらその学校の受験科目や内容を調べてみましょう。

日本の高等教育機関で特徴的なのは、出願の段階で学ぶ専攻を決めておく必要があることです。

入学後に専攻を変更することが可能な学校もありますが、変更できる専攻に限りがあったり、変更する場合も改めて試験などが実施されることがほとんどです。

どの学校へ進学するとしても、入学前の学校調べがとても重要になってきますので、インターネットや進学説明会などを利用して、自分が学びたいことはどの学校に行けばできるのか、時間をかけてじっくりと調べてみましょう。

## ● 日本の「大学院」の特徴

大学の学部（学士課程）の上、または独立して設置される研究機関で、国立、公立、私立の学校があります。

日本の大学院制度で特徴的なのは、多くの学校で「博士課程」が前期課程と後期課程の2つに分かれています。博士課程（前期課程）のみで修了した場合、修士課程と同等と見なされます。

入学の基準は、学校ごとに異なりますが、「修士課程」「博士課程（前期）」「専門職学位課程」は大学卒業（学士取得）相当、「博士課程（後期）」は、博士課程（前期）または修士課程修了相当の学力が求められます。

「修士課程」「博士課程」と、高度な専門職業人材の養成を目指す「専門職学位課程（修士課程）」の3つの過程があり、それぞれの修業年限は、修士課程で2年間、専門職学位課程で2年～3年間、博士課程で3年間が一般的です。

## ● 日本の「大学」の特徴

国立、公立、私立の学校があり、その多くが私立の大学です。

正規過程の修業年限は4年間、専門的国家資格等を取得することが目的となる医学、歯学、獣医学、一部の薬学などは6年間となっています。

いずれも、修業年限や単位数などの条件を満たして卒業をすると、「学士」の学位が与えられます。

一部の学校では、大学院や大学への進学を希望する外国人の学生を対象に、日本語教育などを行う準備機関である「留学生別科（日本語別科）」を設置しています。英語のみで卒業できる大学や学部・学科もありますが、日本の大学の場合、日本語での授業が多いため日本語能力に不安のある人は、留学生別科の利用も検討してみましょう。

修学年数や年齢などの細かい条件がありますが、主には高等学校修了相当の力を有することが入学の条件です。

## ● 日本の「短期大学」の特徴

公立、私立の学校があり、ほとんどが私立の短期大学です。現在は、国立の短期大学はありません。

大学と比較すると修業年限が2年または3年間と短いほか、学術的な研究よりも社会に出て役立つ技術や知識を身につける教育に重点を置いており、専門的な職業人材の養成や、地域コミュニティの基盤となる人材の養成、教養的要素を有する人材の養成、生涯学習の場を目指す教育機関となっています。

修業年限や単位数などの条件を満たして卒業をすると、「短期大学士」の学位が与えられ、短期大学士は大学の途中年次に入学をすることができる編入学をすることができます。また、大学と同様に附属の「留学生別科（日本語別科）」がある学校もあります。

## ● 日本の「専門職大学・専門職短期大学」の特徴

2019年度より新設される日本の新しい高等教育機関で、すべて私立の学校です。

大学で学ぶような高い学術的素養・教養とともに、専門学校で身につけるような社会で実践できる技術・能力を持つ人材育成を目指した教育を行います。

修業年限は、専門職大学で4年間、専門職短期大学で2年または3年間。卒業単位のうち3割～4割を企業などで実習を行います。修了後は大学、短期大学と同等の「学士（専門職）」「短期大学士（専門職）」の

学位を得ることができます。

### ● 日本の「専門学校」の特徴

正式には、専修学校（専門課程）と呼ばれる、高等教育機関で、将来的な職業や資格取得のための専門的知識や技術を修得することを目的としています。国立、公立、私立の学校がありますが、ほとんどが私立の学校です。修業年限は2年間が主流ですが、専門性の高い分野については3年または4年間の学校もあります。

専門学校は、目指す職業や身につけたい技術によって、さまざまな学校や学科、コースがあることが特徴です。

大きく分けると「工業」「農業」「医療」「衛星」「教育・社会福祉」「商業実務」「服飾・家政」「文化・教養」の8つの分野があります。

修業年限や修了認定などの条件を満たして、文部科学大臣が認めた学科を卒業をすると、「専門士」または「高度専門士」の称号が与えられ、専門士には日本の大学への編入、高度専門士には日本の大学院への入学資格が与えられる学科もあります。

卒業後は、取得した技術本で学び日本で働きたいのか長期的な視野を持って学校を選ぶことが望ましいです。

### ● 日本の「高等専門学校」の特徴

中等教育（後期）を含む修業年限5年間（商船学科のみ5年6ヶ月）の高等教育機関で、高度な技術を持つ技術者の養成を目的としています。国立、公立、私立の学校があり、多くは国立の学校です。

外国人留学生の場合は、1年次からの入学ではなく、高校卒業程度の学力を必要とする4年次または3年次への編入学での入学となります。

卒業をすると「準学士」の学位が取得でき、大学の3年次に編入学することができます（2年間の専攻科へ進学した場合は、大学院修士課程・博士課程前期への入学資格が得られます）。

さまざまな種類の学校があるので、自分の持っている学力や将来やりたいことにあった学校選びをするようにしましょう。

## 自分にあった学校」を探すための3つのポイント

将来の夢を叶えるためには、あなたにぴったりの学校を選ぶ必要があります。ここでは、外国人留学生のみなさんが日本の学校を選ぶときに役立つ「3つのポイント」を紹介します。

### ● ポイント1 興味のある学校を探す

将来はどこでどのような働き方をしたいのか具体的にイメージができる人は、希望する職業に必要な「知識」や「技術」、「資格」を考え、それらを身につけることができる学校を探してください。将来は自国に戻り学んだことを活かして活躍したいのか、それとも日本での就職を希望するののかも進路選びの重要なポイントです。

まだ進路決定に悩んでいる途中の人は、まず自分が興味を持ち、学びたいことを考えてみましょう。興味のある分野が見つかったら、対象の学校や学部、コースをどのような日本語で探せばいいかを調べてみましょう。例えば、ビジネスについて大学で勉強したい場合は、「商学」、「経済学」、「経営学」などのキーワードで大学を探することができます。デザインについて学びたい場合は「アート」「美術」「芸術」などのキーワードもありますが、それぞれ少し意味が違います。正しいキーワードで学校をさがすことが、より良い進路選択への近道です。

また、学びたい分野により、「大学院」「大学」「専門学校」など希望に適した高等教育機関を選ぶ必要があります。卒業までにかかる年数や、卒業後取得できる資格なども考慮したうえで、自分の目的に合った学校を探しましょう。

### ● ポイント2 入学に必要な条件を満たしているか考える

学校に入学するには、「学力」「学費」「入学資格」の条件を満たしている必要があります。3つの条件が自分と合っているかを考えて志望校を選びましょう。

#### 〈学力〉

学校によって求められる学力の種類やレベルは異なります。入学試験の点数だけでなく、日本語でのコミュニケーション能力や日本語教育機関の出席率を求められる場合もあります。どのような学力が求められるのか、希望する学校にあらかじめ相談しましょう。受験する年度よりも前に日本留学試験（EJU）や日本語能力試験（JLPT）を受験しておき、今の自分の点数を把握しておくこともおすすめです。昨今の留学生増加により、前年よりも合格点が上がることもあります。念のため志望校は1校ではなく、複数校ピックアップし、出願・受験できる準備をしておきましょう。

#### 〈学費〉

入学金や授業料、施設利用費や教科書代など、入学が決まればまとまったお金が必要になります。せっかく試験に合格しても、入学金の支払いが間に合わないといった事態にならないよう、前もって計画を立てましょう。勉学がおろそかにならない範囲でアルバイトを続けて、必要な学費を貯めることができるか計算してみましょう。学校によっては学費の分納が可能な場合や、独自の奨学金や減免などの資金援助を用意している場合があります。引っ越しの必要があれば引っ越しにかかる費用など、学校に支払う費用以外も含めてまずはリストアップをして、いつ、どれくらいの金額が必要なのか事前に確認しておくといでしょう。

#### 〈入学資格〉

日本の大学（学部）・短期大学・専門職大学・専門学校へ入学するためには、原則として正規の学校教育の12年の課程を修了している必要があります。学校独自の要件が求められることもあるので、入学資格があるかどうか分からない場合は、必ず志望校へ問い合わせましょう。

● **ポイント3 学びの環境や外国人留学生へのサポートが整っているかを考える**

学校寮の有無や外国人留学生向けの授業、チューター制度など、外国人留学生のみなさんのための勉強や生活をサポートする体制は学校によって異なります。在学中だけではなく、就職支援や卒業生の就職実績など、卒業後の進路についてのサポートが整っているかどうか確認しましょう。

そのほか、英語による授業のみで学位を取得するプログラムがある大学や、大学への編入コースがある専門学校など、学校によってさまざまな取り組みが行われています。自分に必要なサポートが受けられるかどうか学校選びの重要なポイントです。

学校案内を読むときや、説明会でお話を聞くときには以上のポイントを参考にしてください。

学べる分野や学校の特徴など、詳細条件を設定して学校を探すこともできます。ぜひ自分に合った学校選びに活用してください。

## 学 問 一 覧

## 文 系

## 文学（文化を通して人間と人間社会の本質に迫る）

日本文学	文学を通して、日本を知る
外国文学	文学を通して、その国や地域を知る
地理学	歴史と自然と人間生活のかかわりを考える
哲学・倫理・宗教	過去の様々な事象を系統的、総合的にとらえる
心理学	心のメカニズムを科学する
文化学	さまざまな文化と創造的思考の源を学ぶ
歴史学	各地、各時代の社会を検証して現代の社会に生かす
考古学・文化財学	“人間とその世界” についての研究を行う

## 語学（国際理解のために諸外国の言語と文化を学ぶ）

外国語学	国際理解のため、外国の言語と文化を学ぶ
日本語学	正確で幅広い日本語の知識と表現能力の習得をめざす
言語学	特定の言語の理論、構造と社会的・文化的側面からの研究を目的とする

## 法学（社会の秩序をつくり、人間の幸福を追求する）

法学	社会を豊かに発展させるルールを研究
政治学	よりよい生活を求め、政治の動きを明らかにする

## 経済・経営・商学（モノとカネの流れを通して社会動向を探る）

経済学	お金と人間、社会との関係の本質を探る
経営・商学	経済学の理論を、現実の社会に応用する
経営情報学	企業経営における「情報の活用」を研究する

## 社会学（個人から国家まであらゆる社会現象が対象）

社会学	人間社会における秩序、しくみに注目する
社会福祉学	一人ひとりの幸せ、人類全体の幸せを追求する
観光学	様々な学問分野の観点から観光を研究する
マスコミ学	多様化するマスコミとマスメディアを研究しそのあるべき姿を探る

## 国際関係学（世界平和をめざし、国際問題を研究する）

国際関係学	国と国が相互理解できる世界をめざす
-------	-------------------

## 理 系

看護・保健学（病気の予防と健康の増進を研究）

看護学	身体の痛みと心の悩みをトータルにケアする
医療技術	検査とリハビリの面から医療に貢献する
保健学	社会と環境と“人間の健康”を考える
体育・健康科学	“運動”を科学的に研究する

医・歯学（医師となるための知識・技術を得る）

医学	“生命”を治療や予防の観点から追究する
----	---------------------

薬学（薬剤師の資格取得をめざし、薬の処方を学ぶ）

薬学	医学などと協同し、薬の可能性を追究する
----	---------------------

理学（技術開発の基礎となる自然界の物質を探る）

数学	他分野の発展にも貢献する“数”の基礎研究
物理学	実験を通して、物質の本質と特性を解明する
化学	物質に起こる変化や反応を、積極的に研究する
生物学	ミクロからマクロまで、生命の本質を追究する
地球科学	自然現象を解明し、21世紀の地球を守る
情報科学	コンピュータを利用して情報の活用法を研究する
総合理学	理学各分野の関連性を見いだす学問

工学（自然界の法則を利用し、人に役立つ技術を開発）

機械工学	人間と地球に優しい機械を考える
電気・電子・通信工学	エネルギーと情報伝達手段の電気に注目する
情報工学	コンピュータのハード、ソフトを研究
建築・土木・環境工学	人間と自然と建物との共生を考える
応用化学	化学の理論で技術開発を進めていく
応用物理学	物理学の理論を技術開発に生かす
資源・エネルギー工学	地球内部の地下資源が研究対象に
金属・材料工学	人に、そして環境に優しい材料を研究する
商船学	海から地球へ、広がる輸送技術を考える
船舶・海洋工学	船と海で、最新技術を展開する
航空・宇宙工学	空と宇宙を舞台に、夢の技術を実現させる
経営工学	組織を工学的な視点でバックアップしていく
生物工学	生命の科学を、人間の暮らしに生かす
工業デザイン	人間と工学との接点をデザインする



農・水産学（安全で安定した供給をめざし、食料を研究）

農学	農業の発展をあらゆる面から考える
森林科学	森林と豊かな人間生活の関係を考える
農芸化学	農業発展のために、技術と薬品を開発する
農業工学	農業をシステム・設備面からサポートする
獣医学	動物の治療と健康を考える
農業経済学	農業を通じて、消費者の生活向上に貢献する
水産学	水産資源の有効利用を科学的に追究する
畜産学	動物を通して、人間が得られるものを追求する

文 理 系

教員養成・教育学（人間の成長を助ける教育の在り方と手法を学ぶ）

教員養成系	質の高い教育ができる人材の養成が目的
その他教育学	幅広い知識を身につけ教員以外の道を目指す教育者を養成する
教育学	“教育”のあり方を、本質的な部分から探る

生活科学（生活を多方面から分析し、豊かな暮らしを実現）

生活科学	快適な人間の“生活”をトータルに追求する
食物・栄養学	栄養バランスのとれたおいしい食を追求する
被服学	科学と文化の両面から被服を考える
児童学	環境の変化を踏まえて子供の成長を支援する
住居学	よりよい生活のデザインと住環境を提案する

芸術学（感性と技術を磨き、表現力を高める）

美術・デザイン	「表現したい」という欲求を形にする
芸術理論	芸術の理論と技術を社会に生かす
音楽	演奏、教育、歴史から“音楽”にアプローチする
その他芸術	美術、音楽以外の芸術的表現を究める

総合科学（自由な発想で社会問題に迫る）

人間科学	“人間”そのものをさまざまな角度から分析する
総合情報学	情報をツールとしてあらゆる範囲の問題を考える
総合科学	一つの事象に、多角的に迫る目を養う

## 留学生のための「大学院」進学基本情報

外国人留学生のみなさんが「大学院」に進学するための、基本情報です。日本の大学院の特徴をはじめ、主な出願条件、入試方法、かかる費用などを確認して、大学院進学のための準備を始めましょう。

### ● 日本の「大学院」の特徴

日本の大学院には、学校によって設置している課程は異なりますが、「修士課程」「博士課程」「専門職学位課程（修士課程）」の3つの種類があります。その多くが4月入学の大学院ですが、一部9月～10月入学の大学院もあります。

日本の大学院で特徴的なのは「博士課程」の区分です。5年間一貫制の学校と、2年間の「博士課程（前期）」と3年間の「博士課程（後期）」に分かれている区分制の学校があります。日本の大学院の場合、一貫制博士課程をもつ学校は少なく、多くは区分制の学校です。もし、「博士課程（前期）」のみで修了した場合には、修士課程修了とみなします。

「専門職学位課程（修士課程）」は、高度な専門能力を備え、社会・経済の各分野でリーダーとなって活躍できる職業人の養成を目指す教育課程です。専門職学位課程（修士課程）の取得に特化した研究を行う場として、「専門職大学院」があり、代表的なものとしては、法律に関する職業人を養成する法科大学院、教員養成の教職大学院。その他にも経営、会計、MOT（Management of Technology）、公共政策、公衆衛生、知的財産、臨床心理などの分野の専門職大学院があります。

さらに、日本の大学院には、非正規の学生でありながら大学院で聴講ができる「研究生（留学研究生）」という制度があります。研究生は、学位の取得を目的とせず短期間の研究活動のために在籍をしている者、大学間交流協定に基づく短期留学生として在籍している者、大学院正規過程の入学への準備機関として在籍している者のいずれかで、書類選考だけで入学許可を得ることができる学校が多くあります。大学院によっては、大学院正規過程へ進学する前に、研究生の過程を経ることが望ましいとしている大学院もあります。研究生として「留学」の在留資格（ビザ）を得るためには、1週間につき10時間以上の聴講をすることが必要です。

その他、特定の科目を履修して単位を取得することができる「科目等履修生」、特定の科目は聴講できますが単位の取得はできない「聴講生」という制度を設けている学校もあります。

### ● 「修士課程・博士課程（前期）」に入学するために必要な条件

学士と同等程度の、以下のような条件のいずれかを満たす必要があります。

- ①日本の大学を卒業した者
- ②独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構（NIAD-QE）により学士の学位を授与された者
- ③外国において、学校教育における16年間の課程を修了した者
- ④外国の大学、外国に置かれている学校のうち大学に相当する学校において、修業年限が3年以上の過程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑤日本において、外国の大学の課程を有するものとして指定された教育施設の16年の課程を修了した者
- ⑥指定された専修学校を修了した者
- ⑦大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

### ● 「博士課程（後期）」に入学するために必要な条件

学士と同等程度の、以下のような条件のいずれかを満たす必要があります。

- ①日本の修士の学位や専門職学位を有する者
  - ②外国において、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者
  - ③日本において、外国の大学院の学位を有するものとして指定された課程を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者
  - ④大学を卒業し、大学、研究所（外国の大学・研究所を含む）等において2年以上研究に従事した者で、大学院において、修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた者
  - ⑤大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めた者で、24歳に達した者
- 博士課程のうち、「医学」「歯学」「一部の薬学」「獣医学」については、以下の条件となります。

- ①日本の大学の医学、歯学、薬学または獣医学の学部課程（6年間）を修了した者
- ②日本の修士の学位や専門職学位を有する者
- ③外国において、学校教育における18年間の課程を修了した者
- ④日本において、外国の大学の課程を有するとして指定された教育施設の18年間の課程を修了した者
- ⑤大学院において、個別の入学審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者

● 大学院卒業・修了のための条件

入学する大学院や課程により異なります。各大学院に問い合わせ、確認をするようにしてください。

	修業年限	取得単位	その他	取得学位
修士課程	標準2年	30単位以上	修士論文の審査および試験に合格	修士
専門職学位課程 (修士課程)	2～3年以上	30単位以上（大学院により異なる）		修士（専門職）
博士課程	標準5年	30単位以上	博士論文の審査および試験に合格	博士

● 大学院への進学にかかる費用

下記の一覧表は、日本の大学院の初年度納入金平均額（日本人学生）です。初年度納入金額とは、一般的に入学金、授業料、施設・設備費などを含んだ入学する年にかかる費用で、ここに表示されている金額は奨学金などを適用する前の費用です。

■ 修士課程

国立		¥817,800
公立		¥901,603
私立	芸術	¥1,418,466
	工学	¥1,179,083
	保健	¥1,128,053
	理学	¥1,069,686
	農学・獣医学	¥1,016,628
	薬学	¥1,026,211

	家政	¥964,087
	教養	¥939,167
	社会科学	¥919,398
	人文科学	¥852,526
	医学	¥867,683

■ 博士課程

	国立	¥817,800
	公立	¥901,603
私立	芸術	¥1,304,179
	工学	¥1,002,508
	保健	¥1,046,670
	理学	¥990,668
	農学・獣医学	¥1,017,207
	薬学	¥897,208
	家政	¥961,218
	教養	¥901,551
	社会科学	¥821,148
	人文科学	¥799,788
	医学	¥699,625

出典：文部科学省／JASSO（2018-2019 Student Guide to Japan より）

これらの初年度納入金以外に、出願の時にかかる入学検定料、海外から日本に受験をしに行く場合には渡航費と滞在費、入学する大学院のそばで生活をするようであれば引っ越しや入居のための費用などがかかってきます。とてもたくさんの費用がかかるように見えますが、日本学生支援機構（JASSO）をはじめ、地方自治体、各種団体、入学した大学院による、各種奨学金や学費の減免制度（授業料の30%～全額程度）など日本での学費負担をサポートする制度もありますので、詳しくは各学校のウェブサイトを確認するか、志望の大学院に問い合わせてください。

奨学金の種類によっては、入学後から支給されるものもあります。学校に収める金額以外にも、いつ何にどれくらいの費用がかかるのか、申し込んだサポート制度がいつからどんな目的に使えるのか、調べておくといでしょう。

● 大学院の出願に必要な書類

各学校によって必要提出書類は異なります。志望校が決まったら、必ず募集要項やウェブサイト、直接問い合わせなどで必要書類の確認をするようにしてください多くの大学院入試で一般的に必要な書類は、以下のとおりです。発行に時間がかかる書類や、郵送にかかる時間も地域によって異なりますので、余裕を持って準備をしましょう。

- ①入学願書（大学院所定のもの）
- ②大学学部卒業（見込）証明書
- ③修士学位取得（見込）証明書 ※博士課程の場合
- ④最終学校の成績証明書
- ⑤推薦状
- ⑥出身大学における研究（卒業）論文とその要旨

⑦研究計画書

⑧その他

大学院によっては、講義言語が「日本語のみ」または「主に日本語」という研究科・専攻があります。そのため、日本留学試験（EJU）、日本語能力試験（JLPT）などの日本語能力証明書の提出が必要な場合もあります。

また、研究科によっては、出願前に指導教員（大学教授など、履修計画や研究の指導をしてくれる教員）を自分で探して、受け入れの内諾を得る必要があります。指導教員は、あなたの出身大学の指導教員から紹介をしてもらったり、学会報や元留学生、自国の研究者等から情報を得たり、大学院のウェブサイト「researchmap（国立情報学研究所のウェブサイト）」「J-GLOBAL（独立行政法人科学技術振興機構のウェブサイト）」等で、探すことができます。自分の研究分野に合った指導教員を見つけましょう。

指導教員を見つけたら、これまでのあなたの研究成果や今後の研究計画、その教員を選んだ理由などを具体的に明記した文章と、できればあなたの出身大学の指導教員等の推薦状をつけてE-mailなどで送ることが望ましいです。すぐに返事が来ない場合もありますので、時間に余裕を持って志望する研究科・専攻を見つけるようにしましょう。

● 大学院の入学試験の内容

試験内容は大学院ごとに異なりますが、多くの場合、下記のいくつかを組み合わせて行われます。

①書類審査（出願書類）

②学力試験（専攻または指定科目の筆記試験）

③面接（直接またはオンライン）

④小論文・作文

⑤専攻科目に関する口頭試問（直接またはオンライン、電話）

③面接、⑤専攻科目に関する口頭試問は、①書類審査や②学力試験などの合格者のみ実施する、二段階の選抜方法を実施している学校が多くあります。その場合、試験日が数日間にまたがる場合がありますので、日本国外からの応募する場合は、二次試験も含めた期間中滞在できるように試験日程と内容を事前によく確認しましょう。

● 進学説明会やウェブサイトを活用した大学院検索

大学院への進学は、研究科ごとにその条件や事前準備などが異なります。早めにどのような研究がしたいのかを定め、学べる大学院や指導教員を見つけて問い合わせをしてみることが重要です。もし、すぐに志望の研究科や担当教員が見つけれない場合には、自分の大学や大学院の担当教員に相談をすることで、あなたにあった大学院や研究科・専攻・指導教員が見つかるかもしれません。

大学院探しは、大学探し以上に時間がかかるもの。時間に余裕をもった学校探しを進めましょう。大学院探しには、複数の学校が一堂に集まる「外国人学生のための進学説明会」の活用もオススメです。直接学校の担当者と話ができるので、E-mailなどで何度も学校とやりとりをする必要もなく、あなたが知りたいことをその場で詳しく知ることができます。志望校を選んでいるときには、ぜひ進学説明会や進学情報ウェブサイトを使ってみましょう。

## 留学生のための「大学」進学基本情報

外国人留学生のみなさんが「大学」に進学するための、基本情報です。日本の大学の特徴をはじめ、主な出願条件、入試方法、かかる費用などをおおまかに確認して、大学進学のための準備を始めましょう。

### ● 日本の「大学」の特徴

日本の大学には、国が設置する「国立」、地方自治体などが設置する「公立」、学校法人または株式会社が設置する「私立」の3つの種類があります。日本の場合は、そのうち約80%が私立大学となっています。また、一部9月～10月入学の大学もありますが、ほとんどの学校が4月入学の大学です。

修業年限は、原則4年間ですが、専門的国家資格等を取得することが目的となる医学、歯学、一部の薬学および獣医学の場合は6年間となっています。

複数ある高等教育機関の中で、大学は学術の中心として、高い教養と専門的能力を身につけるための場として位置づけられています。

さらに日本の大学の学士課程教育においては、

- I 多文化や社会、自然に関する「知識・理解」
  - II コミュニケーションスキルや問題解決能力など知的活動および職業・社会生活において必要な「汎用的技術」
  - III 自己管理能力やチームワークなどの「態度・指向性」
  - IV これらを総合的に活用できる「総合的な学習経験と創造的思考力」
- の4つの力を身につけることを推奨しています。

日本には、大学とよく似た名前の教育機関がいくつかあります。そのうちよく見かけるものに「大学校」「短期大学校」があります。大学校は、大学とは異なる教育機関で、教育訓練施設などで多く使われている名称です。大学校という名前は、法令による規定がなく、どのような組織でも自由に使うことができます。そのため、大学校によっては、専門士・学士・修士などいずれの称号、学位も取得ができない施設もあります。

同様に「大学院大学」も大学によく似た名前ですが、こちらは大学（学士課程）を設置していない大学院です。どちらも大学に名前がとてもよく似ているので、あなたの目的にあった学びができる学校かどうかきちんと調べるようにしましょう。

日本においては大学院での実施が主ではありますが、大学学部でも「外国人研究生」の受け入れを行っている学校があります。学部研究生での入学を希望する場合、学部研究生を受け入れている大学において、事前に指導希望の教員に連絡を取り内諾をもらえれば、書類選考のみで希望の大学で研究を行うことが可能です。

### ● 大学に入学するために必要な条件

大学に入学をするためには、以下のような条件のいずれかを満たす必要があります。

- ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者
- ② 外国における、12年の課程修了相当の学力試験に合格し、18歳に達した者
- ③ 日本において、外国の高等学校相当として指定した外国人学校を修了し、18歳に達した者
- ④ 外国において、11年以上の、文部科学大臣に指定された課程を修了した者
- ⑤ 国際バカロレア、アビトゥア、フランスのバカロレア資格を保有するか、GCEAレベル試験について、学校が個別に定める成績を満たし、18歳に達した者

- ⑥国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI）の認定を受けた教育施設の12年の課程を修了し、18歳に達した者
- ⑦高等学校卒業程度認定試験に合格し、18歳に達した者
- ⑧学校教育法の定める上記以外の入学資格のいずれかの条件を満たす者
- ⑨学校において個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で18歳に達した者

※①～③について、12年未満の課程の場合、かつ外国において、指定された課程を修了していない場合は、さらに指定された準備教育課程または研修施設の課程等を修了することが必要となる場合があります。

### ● 大学卒業・修了のための条件

以下の条件を満たし卒業した者には、「学士」の学位が授与されます。

	修業年限	取得単位
一般の学部	4年	124単位以上
薬学部（4年制）	4年	188単位以上
医学部・歯学部	6年	188単位以上
獣医学部	6年	182単位以上
薬学部（6年制）	6年	186単位以上

取得単位の中には、学部または学科指定の必修科目が含まれます。また、薬学部には4年制の学科と6年制の学科がありますが、薬剤師の国家試験受験資格を取得するためには6年制の学科に進学する必要があります。薬剤師をはじめ、管理栄養士、医師など、資格の種類によっては、卒業だけでは資格取得ができずに、国家資格の受験資格のみ得られるものがあります。資格取得を目的とした進学をする場合には、資格取得までにどのようなステップがあるのかよく調べるようにしましょう。

### ● 大学への進学にかかる費用

下記の一覧表は、日本の大学の初年度納入金平均額（日本人学生）です。

初年度納入金額とは、一般的に入学金、授業料、施設・設備費などを含んだ入学する年にかかる費用で、ここに表示されている金額は奨学金などを適用する前の費用です。

国立		¥817,800
公立		¥932,519
私立	医学	¥5,096,305
	歯学	¥4,289,239
	薬学	¥2,082,020
	芸術学	¥1,651,260
	保健学	¥1,507,010
	理学・工学	¥1,432,394

農業・獣医学	¥1,360,046
体育学	¥1,276,559
家政学	¥1,250,145
文学・教育学	¥1,173,433
社会学・福祉学	¥1,149,000
法学・商学・経済学	¥1,122,199
神学・仏教学	¥1,099,235
留学生別科(1年コース)	¥400,000～¥850,000
留学生別科(1年半コース)	¥642,000～¥1,075,000
留学生別科(2年コース)	¥932,000～¥1,280,000

出典：文部科学省／JASSO (2018-2019 Student Guide to Japan より)

これらの初年度納入金以外に、出願の時にかかる入学検定料、海外から日本に受験をしにくる場合には渡航費と滞在費、入学する専門学校のそばで生活をするようであれば引っ越しや入居のための費用などがかかってきます。

また、大学受験の場合は「留学生特別選抜試験」「一般入試」「推薦入試」「AO入試」など、さまざまな入試方式があります。入試方式や試験日、合格発表日などによって、入学金の納入期限が異なります。納入期限までに入金ができないと、合格が取り消されることもあります。複数の学校を受験する場合、入試のスケジュールによっては最終的に入学をしなかった学校に対しても、入学金を納入しなければならない場合もあるので注意しましょう。

大学への進学は、かなり多くの費用がかかりそうに見えますが、日本学生支援機構（JASSO）をはじめ、各種団体、入学先の大学による各種奨学金や学費の減免制度（授業料の30%～全額程度）など、学費負担を支援してくれる制度もあります。詳しくは各学校のウェブサイトを確認するか、志望の大学に問い合わせてください。奨学金によっては特定の目的でしか利用できないものもありますので、学校に納める金額以外にもいつ何にどれくらいの費用がかかるのか、費用のサポート制度はいつどれくらいの金額が使えるのかを調べておくといでしょう。

## ● 大学の出願に必要な書類

各学校によって必要提出書類は異なります。志望校が決まったら、必ず募集要項やウェブサイト、直接問い合わせなどで必要書類の確認をするようにしてください。

多くの大学入試で一般的に必要な書類は、以下のとおりです。発行に時間がかかる書類や、郵送にかかる時間も地域によって異なりますので、余裕を持って準備をしましょう。

- ①入学願書（学校指定のもの）
- ②自国の高等学校の卒業（見込）証明書
- ③自国の高等学校または最終学校の成績証明書
- ④出身高等学校の校長または教員の推薦状
- ⑤日本語能力または英語能力証明書
- ⑥その他（身元保証人に関する書類など）

日本語能力の証明書としては、「日本留学試験（EJU）」「日本語能力試験（JLPT）」など、英語能力の証明書としては「TOEFL®」「TOEIC®」「IELTS」などの結果の提出が求められる場合が多いです。



英語のみで卒業ができる大学や学部・学科もありますが、日本の大学の多くは日本語のみで講義を行います。もし日本語に不安がある場合には、学部受験をする前に大学附属の日本語教育機関「留学生別科（日本語別科）」への入学を検討してみるのもひとつの方法です。

## ● 大学入学試験の内容

日本人の受験生と同じ試験を受けることも可能ですが、大学の多くが留学生向けの特別な試験を実施しています。試験内容は大学ごとに異なりますが、多くの場合、下記のいくつかを組み合わせて行われます。

- ①書類審査（出願書類）
- ②学力試験（指定科目の筆記試験）
- ③面接（直接またはオンライン）
- ④小論文・作文
- ⑤その他の能力・適性等に関する検査
- ⑥大学入試センター試験

③面接は、①書類審査や②学力試験などの合格者のみ実施する、二段階の選抜方法を実施している学校もあります。その場合は、試験日が数日間にまたがる場合がありますので、日本国外からの応募をして試験を日本で受ける場合は、二次試験も含めた期間中滞在できるよう試験日程と内容を事前によく確認しましょう。

日本の大学入試は、複数の受験方式が用意されています。そのうちのひとつに、共通試験の結果で合否を決める⑥ 大学入試センター試験という方式があります。大学入試センター試験は、国公立大学の場合には、各大学の個別試験を受ける前の第一段階の試験として多く利用されています。私立大学の場合には、この一度の試験で複数の大学に出願をすることができます。

また、多くはありませんが指定日本語学校推薦入試を実施している大学もあります。これは、大学が指定をした日本語学校の学生だけが受験できるとても特別な試験です。各日本語学校から受験できる人数に制限があったり、出願のための条件が厳しく設定されていることが多いですが、その分合格率が高い試験方式です。もし、あなたが日本語学校に在籍をしているようであれば、指定校推薦が来ていないか調べてみるとよいでしょう。

## ● 進学説明会やウェブサイトを活用した大学検索

日本の大学は、出願の時点で希望する学部や学科を決めておく必要があります。入学後に別の学部や学科へ編入できる場合もありますが、編入のための試験を受ける必要があったり、編入できる学部や学科などが決まっていたりと、とても困難です。早いうちから自分が学びたい分野のある学部や学科は何か、どの学校に行けば学べるのか、奨学金制度や寮の有無などの留学生のみなさんへのサポート制度が充実しているかどうかを比べてみて、4年間または6年間通い続けることができそうかどうかをしっかりと調べるのが大切です。どんな学校があるのか調べる際には、今通っている学校の先生や、知り合いの人に相談することももちろん大切ですが、「JPSS」「アクセス日本留学」のようなウェブサイトでは条件を指定して学校検索を試してみたり、直接大学の担当者と話ができる「外国人学生のための進学説明会」に参加をしてみましょう。そして、いくつか気になる学校が見つかったら、可能な限り「オープンキャンパス」などに参加をして、自分の目で見てみるとよいでしょう。実際に学校へ行ってみることで、また違った魅力が見えてくるかもしれません。

## 留学生のための「短期大学」進学基本情報

外国人留学生のみなさんが「短期大学」に進学するための、基本情報です。日本の短期大学の特徴をはじめ、主な出願条件、入試方法、かかる費用などをおおまかに確認して、短期大学進学のための準備を始めましょう。

### ● 日本の「短期大学」の特徴

日本の短期大学には、地方自治体などが設置する「公立」、学校法人または株式会社が設置する「私立」の2つの種類があります。現在、国立の学校はなく、ほとんどが私立の学校です。修業年限は、原則2年間ですが、医療技術や看護などの専門的国家資格等を取得することが目的となる学校の場合は3年間となります。

短期大学は、地域の身近な高等教育機関として、短期間の間に大学で身につけるべき教養とそれを基礎とした専門教育が行われる教育機関です。日本の短期大学は創設以来、特に女性の高等教育の普及や実践的職業教育の場としての役割を果たしてきました。そのため、現在でも約30%の学校が女子短期大学です。さまざまな分野の短期大学がありますが、女性が多いことから女性の就労が多い幼稚園教諭、保育士、栄養士、介護福祉士の養成を行う学校が多くあります。

大学が併設されている学校の一部で「短期大学部」という名前がつく学校がありますが、大学の学部と並ぶひとつの部門ではなく、「短期大学」も「短期大学部」の名称がつく学校もいずれも同じ短期大学となります。短期大学と大学の違いは、その指導方針です。短期大学の指導方針で特徴的なところは、

- ① 学生数が少なくきめ細やかな教育や指導ができる「少人数教育」
  - ② 入学予定者を対象とした基礎学力の補強や学生生活への適応をサポートする「導入教育」
  - ③ 学業だけでなく一人ひとりの学生生活をサポートする「担任制度」
  - ④ 教養教育、専門教育、職業教育から資格取得や就職支援まで幅広く行う「一貫指導」
- などがあげられます。

### ● 短期大学と専門学校の違い

修業年限や取得できる資格など、専門学校と近い役割を担っているように見える短期大学ですが、短期大学のメリットとしては以下のようなことがあげられます。

#### 1 「専攻科」の設置

専攻科は高等教育機関のうち「大学」「短期大学」「高等専門学校」のみ設置が可能な教育課程です。卒業生もしくは卒業生と同等の学力を有する人に対して、より深い研究を行える教育課程で、就業年数は1年以上。設置されているかどうかは学校ごとに異なります。さらに、「認定専攻科」と呼ばれる大学教育に相当する水準の教育を行っていることと認定されている専攻科を修了すると、審査の後に大学卒業に相当する学士の学位を取得することもできます。

#### 2 卒業後の幅広い進路

専門学校の場合、卒業後は学んだ内容に直結した職業に就く場合がほとんどですが、短期大学の場合は就職はもちろん、大学編入や専攻科進学などたくさんの選択肢があるところが特徴です。実際に、短期大学卒業生のうち約10%は進学をしています。また、大学編入者のうち約50%が短期大学からの編入学です。これは大学に併設をされている短期大学が多く、編入学しやすい環境にあるためです。

### 3 地域に密着した教育機関

短期大学の果たす教育目的のひとつに「地域コミュニティの基盤となる人材の養成」があげられます。

短期大学進学者は自県内進学率が高いこともあり、短期大学は「地域の学生が学び、地域ビジネスに貢献すること」を目指しています。そのため、地域との関係性が強く地域の企業からの求人が多くあります。日本国内の特定の地域での進学、就職を考えている留学生には大きなメリットだといえるでしょう。

#### ● 短期大学に入学するために必要な条件

以下のような条件のいずれかを満たす必要があります。

- ①外国において、学校教育における12年の課程を修了した者
  - ②外国における、12年の課程修了相当の学力認定試験に合格し、18歳に達した者
  - ③日本において、外国の高等学校相当として指定した外国人学校を修了し、18歳に達した者
  - ④外国において、11年以上の、文部科学大臣に指定された課程を修了した者
  - ⑤国際バカロレア、アビトゥア、フランスのバカロレア資格を保有するか、GCEA レベル試験について、学校が個別に定める成績を満たし、18歳に達した者
  - ⑥国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI）の認定を受けた教育施設の12年の課程を修了し、18歳に達した者
  - ⑦高等学校卒業程度認定試験に合格し、18歳に達した者
  - ⑧学校教育法音定める上記以外の入学資格のいずれかの条件を満たす者
  - ⑨学校において個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上のお学力があると認められた者で、18歳に達した者
- ※①～③について、12年未満の学校教育課程の場合、かつ外国において、指定された課程を修了していない場合は、さらに指定された準備教育課程または研修施設の課程等を修了することが必要となる場合があります。

#### ● 短期大学卒業・修了のための条件

以下の条件を満たし卒業した者には、「短期大学士」の学位が取れます。

	取得単位
2年課程	62単位以上
3年課程	93単位以上

取得単位の中には、学科指定の必修科目が含まれます。また、資格取得にあたり一定期間の実習が必要となる場合があります。

#### ● 短期大学への進学にかかる費用

下記の一覧表は、日本の短期大学の初年度納入金平均額（日本人学生）です。初年度納入金額とは、一般的に入学金、授業料、施設・設備費などを含んだ入学する年にかかる費用で、ここに表示されている金額は奨学金などを適用する前の費用です。

公立		¥604,973
私立	芸術学	¥1,349,001
	工学	¥1,244,692

	理学・農学	¥1,131,515
	人文学	¥1,094,436
	教育学・保育学	¥1,101,093
	家政学	¥1,098,724
	法学・商学・経済学・社会学	¥1,080,987
	体育学	¥1,043,429

出典：文部科学省／JASSO（2018-2019 Student Guide to Japan より）

これらの初年度納入金以外に、出願の時にかかる入学検定料、海外から日本に受験をしにくる場合には渡航費と滞在費、入学する短期大学のそばで生活をするようであれば引っ越しや入居のための費用などがかかってきます。

奨学金によってはこれらに利用できないものもありますので、学校に収める金額以外にもいつ何にどれくらいの費用がかかるのか、費用のサポート制度はいつどれくらい使えるのかを調べておくといでしょう。

### ● 短期大学の出願に必要な書類

各学校によって必要提出書類は異なります。志望校が決まったら、必ず募集要項やウェブサイト、直接問い合わせなどで必要書類の確認をするようにしてください。

多くの短期大学入試で一般的に必要な書類は、以下のとおりです。発行に時間がかかる書類や、郵送にかかる時間も地域によって異なりますので、余裕を持って準備をしましょう。

- ①入学願書（学校指定のもの）
- ②自国の高等学校の卒業（見込）証明書
- ③自国の高等学校または最終学校の成績証明書
- ④自国の出身高等学校の校長または教員の推薦状
- ⑤日本語能力または英語能力証明書

日本語能力の証明書としては、「日本留学試験（EJU）」「日本語能力試験（JLPT）」など、英語能力の証明書としては「TOEFL®」「TOEIC®」「IELTS」などの結果の提出が求められる場合が多いです。

英語のみで卒業ができる短期大学や学科もありますが、日本の短期大学の多くは日本語のみで講義を行います。もし日本語に不安がある場合には、受験をする前に短期大学附属の「留学生別科（日本語別科）」への入学を検討してみるのもひとつの方法です。

### ● 短期大学の入学試験の内容

日本人の受験生と同じ試験を受けることも可能ですが、留学生向けの特別な試験を実施している学校がほとんどです。試験内容は短期大学ごとに異なりますが、多くの場合、下記のいくつかを組み合わせで行われます。

- ①書類審査（出願書類）
- ②学力試験（指定科目の筆記試験）
- ③面接（直接またはオンライン）
- ④小論文・作文
- ⑤その他の能力・適性等に関する検査
- ⑥大学入試センター試験
- ⑦実技（ピアノや作画など学科により異なる）

## ● 進学説明会やウェブサイトを活用した短期大学検索

日本の短期大学は、出願の時点で希望する学部や学科を決めておく必要があります。入学後に別の学科やコースへ編入できる場合もありますが、編入のための試験を受ける必要があったり、編入できる学部や学科などが決まっていたりと、とても困難です。早いうちから自分が学びたい分野のある学部や学科は何か、どの学校に行けば学べるのか、奨学金制度や寮の有無など、留学生のみなさんへのサポート制度が充実しているかどうかを比べてみて、2年間または3年間通い続けることができそうかどうかを調べるのが大切です。

どんな学校があるのか調べる際には、今通っている学校の先生や、知り合いの人に相談することももちろん大切ですが、ウェブサイトで条件を指定して学校検索を試してみたり、直接短期大学の担当者と話ができる「外国人学生のための進学説明会」に参加をしてみましょう。そして、いくつか気になる学校が見つかったら、可能な限り「オープンキャンパス」などに参加をして、自分の目で見てみるとよいでしょう。実際に学校へ行ってみることで、また違った魅力が見えてくるかもしれません。

## 留学生のための「専門職大学」進学情報

外国人留学生のみなさんが「専門職大学」に進学するための、基本情報です。日本の専門職大学の特徴をはじめ、主な出願条件、入試方法、かかる費用などをおおまかに確認して、専門職大学進学のための準備を始めましょう。

### ● 日本の「専門職大学」の特徴

「専門職大学（専門職短期大学）」は、2019年度より新しく設置される日本の高等教育機関です。

「専門」と「大学」というふたつの言葉が使われていますが、どちらにも所属をしない学校種で、卒業をすると「学士（専門職）」の学位が授与される新しい高等教育機関です。

教養を身につけることや学術研究を行うことを重視する、大学や短期大学の教育とは違い、変化の激しい時代の中で、「即戦力として活躍できる技術や知識を活用する『実践力』」と「既存の発想にとらわれずに新たなものやサービスを生み出す『創造力』」。その両方を兼ね備えた人材を育成することを教育目標としています。

専門職大学の教育は、産業界との密接な環境の中で行うことが最大の特徴です。

専門性が求められる職業に就いている技術者や関係者の協力を得て、各業界と連携をした教育を行います。そのため、卒業単位のうち3～4割程度以上が実習等の科目、企業実習等も短期大学で10単位以上、大学で20単位以上履修するなどの規定があります。

さらに、一般的な大学に比べて、社会人などさまざまな学生を積極的に受け入れる方針であることも専門職大学の特徴のひとつです。学校により異なりますが、前期課程を修了後に一度就職をして、その後に社会人として後期課程に再入学することもできるなど柔軟な学習スタイルを選択することができます。

学校ごとに特化している分野はさまざまですが、医学、歯学、6年制の薬学、獣医学の分野以外であれば、どのような分野でも専門職大学として設置することが可能とされています。現在、開設が予定されている学校は3校のみですが、翌年以降に開設する予定の学校も複数あり、各産業界からの要望により新たに生み出された教育機関という背景もあるため、今後は観光や食、農業、ITなどのいわゆる成長分野や日本における強化産業に関する専門職大学が増えていくことが予想されています。

### ● 専門職大学と大学、専門学校の違い

#### ① 広く学ぶ「大学」、深く学ぶ「専門職大学」

一般的な大学との大きな違いは、教育目標と研究領域です。

一般的な大学は、高い教養と専門的能力を身につける場として位置づけられています。特に学士課程においては、さまざまな文化や環境を受け入れ様々な人々と関わるための総合的な能力を伸ばしていくことを目的としています。そのため、学部や学科に関する専門的な研究も行いますが、一般的な教養教育も行います。

対して、専門職大学は特定の業界において現場をけん引するリーダーとなる人材育成を目標に、特定の業界に特化した高い知識と能力を身につける教育を行います。

専門職大学は研究分野が限定されているため、同時に卒業後の進路選択も、ある程度限定されてくるという点で大きな違いがあります。すでに卒業後に進みたい業界が決まっている、業界内においてスペシャリストとして活躍したいという人にはぴったりの教育機関だといえます。

#### ② 称号・学位の違い

専門学校との一番の違いは、修了後に取得できる学位・称号の違いです。

専門職大学の研究領域は専門学校に近く見えますが、設置区分が違うため卒業後の扱いが異なります。専門学校を修了すると「専門士」「高度専門士」の『称号』を得ることができ、専門職大学は修了すると「学

士（専門職）」の『学位』が授与されます。

この、『称号』と『学位』には違いがあり、日本国内においては『称号』と『学位』は同等と見なされていますが、国際的に通用するのは学位のみです。

たとえば、専門学校において修業年限が4年以上で高度な技術を身につける「高度専門士」も、4年（または6年）の大学を修了後に授与される「学士」も、いずれも日本の大学院への入学が可能ですが、日本国外の大学院への進学は必ずしも可能なものではありません。

### ● 専門職大学に入学するために必要な条件

法令上、大学と同じ区分とされているため大学同様に以下のような条件のいずれかを満たす必要があります。

- ①外国において、学校教育における12年の課程を修了した者
- ②外国における、12年の課程修了相当の学力試験に合格し、18歳に達した者
- ③日本において、外国の高等学校相当として指定した外国人学校を修了し、18歳に達した者
- ④外国において、11年以上の、文部科学大臣に指定された課程を修了した者
- ⑤国際バカロレア、アビトゥア、フランスのバカロレア資格を保有するか、GCEAレベル試験について、学校が個別に定める成績を満たし、18歳に達した者
- ⑥国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI）の認定を受けた教育施設の12年の課程を修了し、18歳に達した者
- ⑦高等学校卒業程度認定試験に合格し、18歳に達した者
- ⑧学校教育法の定める上記以外の入学資格のいずれかの条件を満たす者
- ⑨学校において個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で18歳に達した者

※①～③について、12年未満の課程の場合、かつ外国において、指定された課程を修了していない場合は、さらに指定された準備教育課程または研修施設の課程等を修了することが必要となる場合があります。

### ● 専門職大学卒業・修了のための条件

以下の条件を満たし卒業した者には、「学士（専門職）」「短期大学士（専門職）」の学位が授与されます。

	取得単位	専門職短期大学
学位	学士（専門職）	短期大学士（専門職）
就業年限	4年	2年
取得単位	124単位以上	62単位以上
うち実習等の科目	38～50単位程度以上	18単位～25単位以上
うち企業実習	40単位	20単位

### ● 専門職大学への進学にかかる費用

下記の一覧表は、日本の大学の初年度納入金平均額（日本人学生）です。

初年度納入金額とは、一般的に入学金、授業料、施設・設備費などを含んだ入学する年にかかる費用で、ここに表示されている金額は奨学金などを適用する前の費用です。

まだ学校数が少なかったり、分野も限られていたりとなら全体的な学費の傾向はまだ不明ですが、専門職大学は、専門知識を学ぶための最新の施設や設備を使用するため、一般的な大学の学費に比べて2割～3割程度学費が高くなる傾向が予想されます。

学費がかなりかかりそうに見えますが、大学と同様に日本学生支援機構（JASSO）などの奨学金を利用す

ることができますし、学校ごとに、各種奨学金や学費の減免制度（授業料の30%～全額程度）など日本での学費負担をサポートする制度もありますので、詳しくは各学校のウェブサイトを確認するか、志望の専門職大学に問い合わせてください。

私立	一般的な大学	専門職大学（予想）
芸術学	¥1,651,260	¥1,980,000～2,140,000
保健学	¥1,507,010	¥1,800,000～1,950,000
理学・工学	¥1,432,394	¥1,710,000～1,850,000
農業・獣医学	¥1,360,046	¥1,630,000～1,760,000
体育学	¥1,276,559	¥1,520,000～1,650,000
家政学	¥1,250,145	¥1,500,000～1,620,000
文学・教育学	¥1,173,433	¥1,400,000～1,520,000
社会学・福祉学	¥1,149,000	¥1,380,000～1,490,000
法学・商学・経済学	¥1,122,199	¥1,340,000～1,450,000
神学・仏教学	¥1,099,235	¥1,320,000～1,430,000

出典：文部科学省／JASSO（2018-2019 Student Guide to Japan より）専門職大学学費予想：株式会社アクセスリード

これらの初年度納入金以外に、出願の時にかかる入学検定料、海外から日本に受験をしにくる場合には渡航費と滞在費、入学する専門職大学のそばで生活をするようであれば引っ越しや入居のための費用などがかかってきます。

奨学金によってはこれらに利用できないものもありますので、学校に納める金額以外にもいつ何にどれくらいの費用がかかるのか、費用のサポート制度はいつどれくらい使えるのかを調べておくといでしょう。

### ● 専門職大学の出願に必要な書類

出願資格同様に、こちらも大学と同様の書類提出が求められることが予想されます。

各学校によって必要提出書類は異なります。志望校が決まったら、必ず募集要項やウェブサイト、直接問い合わせなどで必要書類の確認をするようにしてください。

大学入試で一般的に必要な書類は、以下のとおりです。発行に時間がかかる書類や、郵送にかかる時間も地域によって異なりますので、余裕を持って準備をしましょう。

- ①入学願書（学校指定のもの）
- ②自国の高等学校の卒業（見込）証明書
- ③自国の高等学校または最終学校の成績証明書
- ④出身高等学校の校長または教員の推薦状
- ⑤日本語能力または英語能力証明書
- ⑥その他（身元保証人に関する書類など）

日本語能力の証明書としては、「日本留学試験（EJU）」「日本語能力試験（JLPT）」など、英語能力の証明書としては「TOEFL」「TOEIC」「IELTS」などの結果の提出が求められる場合が多いです。

### ● 専門職大学の入学試験の内容

こちらも大学と同様の内容となることが予想されます。

一般的な大学の場合について日本人の受験生と同じ試験を受けることも可能ですが、留学生向けの特別



な試験を実施している場合があります。また、試験内容は学校ごとに異なりますが、多くの場合、下記のいくつかを組み合わせて行われます。

- ①書類審査（出願書類）
- ②学力試験（指定科目の筆記試験）
- ③面接（直接またはオンライン）
- ④小論文・作文
- ⑤その他の能力・適性等に関する検査
- ⑥大学入試センター試験

③「面接」は、①「書類審査」や②「学力試験」などの合格者のみ実施する、二段階の選抜方法を実施している学校もあります。その場合は、試験日が数日間にまたがる場合がありますので、日本国外から応募をして、日本で受験をする場合は、二次試験も含めた期間中滞在できるように試験日程と内容を事前によく確認しましょう。

専門職大学は、特定の分野に特化をしているという特性から、分野に関する学習の意欲を問う内容が多くなることが予想されます。どうしてその分野に進もうと思ったのか、入学後どのような知識や技術を学びたいのか、卒業後その分野においてどのような新しい取り組みをしたいと考えているのかなど、あなた自身の思いや考えを整理しておくことが大事です。

## ● 進学説明会やウェブサイトを活用した専門職大学検索

日本の専門職大学は、出願の時点で希望する学科やコースを決めておく必要があります。

専門職大学は特に、「特定の分野に特化した研究」を行いますので、思っていた学習内容とは違った……とならないように早いうちから、自分が学びたい分野のある学部や学科は何か、どの学校に行けば学べるのか、奨学金制度や寮の有無など、留学生のみなさんへのサポート制度が充実しているかどうかを比べてみて、通い続けることができそうかどうかを調べるのが大切です。

どんな学校があるのか調べるときには、今通っている学校の先生や、知り合いの人に相談することももちろん大切ですが、「アクセス日本留学」のようなウェブサイトで条件を指定して学校検索を試してみたり、直接専門職大学の担当者と話ができる「外国人学生のための進学説明会」に参加をしてみましょう。

そして、いくつか気になる学校が見つかったら、可能な限り「体験入学」や「オープンキャンパス」などに参加をして、自分の目で見てみるとよいでしょう。実際に学校へ行ってみることで、また違った魅力が見えてくるかもしれません。

## 留学生のための「専門学校」進学基本情報

外国人留学生のみなさんが「専門学校」に進学するための、基本情報です。日本の専門学校の特徴をはじめ、主な出願条件、入試方法、かかる費用などをおおまかに確認して、専門学校進学のための準備を始めましょう。

### ● 日本の「専門学校」の特徴

日本の専門学校には、国が設置をする「国立」、地方自治体などが設置する「公立」、学校法人または株式会社が設置する「私立」の3つの種類があります。日本の専門学校は、そのほとんどが私立の学校です。

修業年限は、原則2年間ですが、医療技術や看護などの専門的国家資格等を取得することが目的となる学校の場合は3～4年間となります。また、高度な職業スキルの習得するための「高度専門士」の称号が取得できる課程では修業年限は4年以上となります。

専門学校は、正しくは「専修学校専門課程」という高等養育機関で、職業もしくは実際生活に必要な能力を育成し、または教養の向上を図ることを目的としています。具体的には、職業に直結する資格や技術を身につける教育を行っています。

日本の専門学校は、教育内容ごとに大きく8つの分野にわかれ、それぞれ下記のとおり分類されます。

分野	学問詳細
工業分野	建築・建設・自動車・機械・ロボット・電気・ゲーム・コンピュータ
農業分野	農業・造園・フラワービジネス・バイオテクノロジー・生命工学・動物管理
医療分野	看護・理学療法・作業療法・リハビリテーション・歯科衛生・臨床検査
衛生分野	栄養・料理・製菓・製パン・理容・美容・メイク・エステ・ネイル
教育・社会福祉分野	介護福祉・社会福祉・老人福祉・保育・幼児教育
商業実務分野	ビジネス・経営・簿記・会計・経理・貿易・旅行・観光・ホテル
服飾・家政分野	ファッション・きもの・編物・手芸・スタイリスト
文化・教養分野	まんが・アニメ・声優・音楽・デザイン・写真・通訳・ペット

外国人留学生のみなさんが、日本の高等教育機関で学んだあと、そのまま日本で就職しやすいよう在留資格（ビザ）を緩和する傾向にはありますが、分野によっては、学びと直結する職業に該当する在留資格がまだない職業もあります。進学先を決めるときには、技術や知識を身につけて自国で活躍をしたいのか、それとも日本で就職をしたいのか卒業後の働き方もイメージしておくといでしょう。

### ● 認可校と無認可校

受験をする専門学校を選ぶときには、その学校が認可校（専門学校）なのか無認可校なのかを確認するようにしましょう。認可校と無認可校の違いは、公的機関からの認可を受けているかどうかです。無認可校は日本の高等教育機関ではありませんので、「専門士」「高度専門士」の称号を取得することができません。

専門学校は、日本の法律で決められた一定の基準を満たしている学校で、都道府県知事や教育委員会、文部科学大臣による認可を受けています。そのため、「認可校」とも呼ばれます。また、「専門学校」という名前は認可校だけが名乗ることができます。ただし、「専門学校」は必

ずつけなければならない名称ではないので、専門学校であっても〇〇学院、〇〇学園などの学校名の場合もあります。そのため、名前は認可校かどうかを知るための基準の一つにはなりませんが、それだけで判断できないので注意してください。

その他の違いとしては、無認可校の場合は公的奨学金の利用や通学定期・学生割引の利用、大学編入、大学院入学などができません。ただし、認可校だから良い学校、無認可校だから悪い学校というわけではありません。無認可校でも高い水準の教育を行っている学校はあります。無認可校であるメリットとしては、授業時間や講師の数や実績、校舎などに関する法による拘束がないので、自由なカリキュラムや学習環境が用意できるということです。

## ● 専門学校と専門職大学（専門職短期大学）・短期大学との違い

専門学校と専門職大学（専門職短期大学）、短期大学はそれぞれ実務を重視した専門教育を行う、という点でとてもよく似ていますが、専門学校のメリットとしては以下のような点があげられます。

### I 時代に合わせた柔軟なカリキュラム

設置基準などが大学と同等水準で厳しく設定されている専門職大学や短期大学に対して、専門学校の魅力は、制度の自由度の高さによる柔軟なカリキュラム構成。時代が求めるものにあわせ比較的容易に変更をすることができるので、最先端の技術の修得や実践的な教育の展開が可能です。

### II 即戦力が身につく教育環境

専門学校の場合、専門教育と実習が授業の大半を占めています。さらに、指導をするのは主に実務経験者や現役で活躍をしている技術者です。そのため、各種高等教育機関の中でも即戦力を身につけるという点においては、専門学校に勝るものはありません。現場に近い指導者を介した各業界との強いつながりも魅力です。

### III 「職業実践専門課程」による企業連携

専門学校の一部の学科では、文部科学省が「職業実践専門課程」として認定している学科があります。職業実践専門課程とは、学科の名称ではなく、既存の学科に対して文部科学省が認定を行うものです。職業実務専門課程に認定された学科は、企業等と連携を行い、実演や実習はもちろん、生徒だけではなく教員への実務に関する研修、企業等による学校評価などを行っています。外部からの評価をされることで、常に高いレベルの教育が実践され、さらに企業側から見た「現場で欲しい人材の育成」を行うことができます。職業実践専門課程があるかどうか、学校選びのひとつの参考にしてみてください。

## ● 専門学校に入学するために必要な条件

以下のような条件のいずれかを満たす必要があります。

- ①外国において、学校教育における12年の課程を修了した者
- ②外国における、12年の課程修了相当の学力認定試験に合格し、18歳に達した者
- ③日本において、外国の高等学校相当として指定した外国人学校を修了し、18歳に達した者
- ④国際バカロレア、アビトゥア、フランスのバカロレア資格を保有するか、GCEAレベル試験について、学校が個別に定める成績を満たし、18歳に達した者

- ⑤国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI）の認定を受けた教育施設の12年の課程を修了し、18歳に達した者
- ⑥高等学校卒業程度認定試験に合格し、18歳に達した者
- ⑦学校において個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上のお学力があると認められた者で、18歳に達した者
- ⑧学校教育法に定める上記以外の入学資格のいずれかの条件を満たす者

※ ①～③について、12年未満の課程の場合、かつ外国において、指定された課程を修了していない場合は、さらに指定された準備教育課程または研修施設の課程等を修了することが必要となる場合があります。

● 専門学校卒業・修了のための条件

以下の条件を満たし卒業した者には、「専門士」または「高度専門士」の称号が付与されます。

	専門士	高度専門士
就業年限	2年以上	4年以上
授業時間	1,700時間以上	3,400時間以上
修了認定	試験等により成績を評価し課程修了の認定を行う	
課程編成	-	体系的に教育課程が編成されていること
修了後	「専門士」を得た場合、大学編入学を認めている	「高度専門士」を得た場合、大学院への入学資格を認めている

学力試験や卒業制作以外にも、出席日数なども重視される傾向があります。

● 専門学校への進学にかかる費用

下記の一覧表は、日本の専門学校の初年度納入金平均額（日本人学生）です。初年度納入金額とは、一般的に入学金、授業料、施設・設備費などを含んだ入学する年にかかる費用で、ここに表示されている金額は奨学金などを適用する前の費用です。

専門学校ごとに、各種奨学金や学費の減免制度（授業料の30%～全額程度）など日本での学費負担をサポートする制度もありますので、詳しくは各学校のウェブサイトを確認するか、志望の専門学校に問い合わせてください。

私立	工業分野	¥1,262,667
	農業分野	¥1,221,000
	医療分野	¥1,372,143
	衛生分野	¥1,487,250
	教育・社会福祉分野	¥1,159,500
	商業実務分野	¥1,142,972
	服飾・家政分野	¥1,042,000
	文化・教養分野	¥1,142,667

出典：文部科学省／JASSO（2018-2019 Student Guide to Japan より）

これらの初年度納入金以外に、出願の時にかかる入学検定料、海外から日本に受験をしにくる場合には渡航費と滞在費、入学する専門学校のそばで生活をするのであれば引っ越しや入居のための費用などがかかってきます。

奨学金によってはこれらに利用できないものもありますので、学校に収める金額以外にもいつ何にどれくらいの費用がかかるのか、費用のサポート制度はいつどれくらい使えるのかを調べておくとい良いでしょう。

また、大学や短期大学との併願を認めている学校も増えています。大学や短期大学の合格発表を待ってから入学手続きや入学金などの納入ができる場合もありますので、支払い期限などは必ず確認しておくようにしましょう。

## ● 専門学校の出願に必要な書類

各学校によって必要提出書類は異なります。志望校が決まったら、必ず募集要項やウェブサイト、直接問い合わせなどで必要書類の確認をするようにしてください。

多くの専門学校入試で一般的に必要な書類は、以下のとおりです。発行に時間がかかる書類や、郵送にかかる時間も地域によって異なりますので、余裕を持って準備をしましょう。

- ①入学願書（学校指定のもの）
- ②自国の高等学校の卒業（見込）証明書
- ③自国の最終学校の成績証明書
- ④日本語教育機関出席率・成績証明書（日本国内在住の場合）
- ⑤日本語能力証明書（海外在住の場合）

日本語能力に関しては、他の高等教育機関に比べて寛容な傾向があります。日本語能力試験（JLPT）N2（2級）以上の学力を出願の条件としている専門学校が多いですが、出願時にN3以下でも入学後に日本語能力のサポートを行っている学校もあります。もし、日本語能力に不安がある場合には、このようなサポートを積極的に行っている学校を探してみるのもよいでしょう。

専門学校の入試の特色として、AO入試や推薦入試の利用が多いことがあげられます。AO入試の場合、オープンキャンパスや体験入学への事前の参加が出願（入試エントリー）の条件とされている場合もあるので、オープンキャンパスや体験入学にはぜひ参加をしておきましょう。

## ● 専門学校の入学試験の内容

日本人の受験生と同じ試験を受けることも可能ですが、留学生向けの特別な試験を実施している場合があります。また、試験内容は学校ごとに異なりますが、多くの場合、下記のいくつかを組み合わせで行われます。

- ①書類審査（出願書類）
- ②学力検査
- ③面接
- ④作文
- ⑤適性検査
- ⑥実技試験
- ⑦日本語科目試験

いずれの審査でも、「目的意識」「入学後の授業についていける日本語能力および学力の有無」「勉強する意欲」を中心に審査をされる傾向にあります。

### ● 学説明会やウェブサイトを活用した専門学校検索

日本の専門学校は、出願の時点で希望する学科やコースを決めておく必要があります。専門学校は特に、その学科やコースの内容に特化した学びを行いますので、思っていた学習内容とは違った……とならないように早いうちから自分が学びたい分野のある学科やコースは何か、どの学校に行けば学べるのか、奨学金制度や寮の有無など、留学生のみなさんへのサポート制度が充実しているかどうかを比べてみて、通い続けることができそうかどうかを調べるのが大切です。

どんな学校があるのか調べるときには、今通っている学校の先生や、知り合いの人に相談することももちろん大切ですが、「アクセス日本留学」のようなウェブサイトで条件を指定して学校検索をしてみたり、直接専門学校の担当者と話ができる「外国人学生のための進学説明会」に参加をしてみましょう。そして、いくつか気になる学校が見つかったら、可能な限り「体験入学」や「オープンキャンパス」などに参加をして、自分の目で見てみるとよいでしょう。実際に学校へ行ってみることで、また違った魅力が見えてくるかもしれません。

いずれの審査でも、「目的意識」「入学後の授業についていける日本語能力および学力の有無」「勉強する意欲」を中心に審査をされる傾向にあります。

## 「日本留学試験(EJU)」を受験する前に知っておきたいこと

日本留学試験(EJU)は、日本学生支援機構(JASSO)が行なっている、日本の学校への留学を希望する人の日本語力と基礎学力(理科・総合科目・数学)を測る試験です。日本の学校の多くが、留学生のみなさんが学校に入るための試験にEJUを使っています。そのほか、入学後の授業理解に必要な日本語能力の目安や、奨学金を給付する人を選ぶためにも使われます。

### ● 2025年(令和7年)の日本留学試験

#### 日本留学試験(第1回)

出願受付期間：2月10日～3月6日

試験日：6月15日

成績発表日：7月23日予定

#### 日本留学試験(第2回)

出願受付期間：7月7日～7月31日

試験日：11月9日

成績発表日：12月17日予定

※日本国内で受験をする場合

### ● 日本留学試験(EJU)を使っている学校

日本の大学の半分以上は、学校に入るための試験に日本留学試験(EJU)の成績を使っています。国立大学においては、ほとんどすべての学校が使っています。専門学校でも日本語力の審査のために日本留学試験(EJU)または日本語能力試験(JLPT)の成績を参考にすることがほとんどです。

日本留学試験(EJU)利用校数(2022年2月現在)

	国立	公立	私立	合計
大学	79	56	345	479
短期大学	-	9	94	103
大学院	7	14	53	74
高等専門学校	51	0	0	51
専門学校	0	2	190	192

※日本学生支援機構(JASSO)調べ

### ● 出題科目と内容

#### 出題科目

「日本語」と、基礎学力を測る「総合科目」「数学」「理科」の4科目のうちから、1科目から3科目までを選んで受験します。「総合科目」「数学」「理科」は、日本の高等学校の学習指導要領に準じた内容となっています。「総合科目」と「理科」を同時に選ぶことはできません。学校や学部、コースによって学校に入るための試験に使う科目がちがいます。だから、入学を希望する学校が指定している科目をEJUの試験を受ける前に確認しましょう。

試験科目		出題言語
日本語		日本語
基礎学力	総合科目	日本語または英語(選択)

	数学	
	理科	

〈日本語〉

日本の大学等での勉強に対応できる日本語力(アカデミック・ジャパニーズ)を測定します。

【出題内容】

「記述」「読解」「聴解・聴読解」の3つの領域から構成されています。時間と配点は、「記述(書く問題)」30分(50点)、「読解(読んで理解する問題)」40分(200点)と「聴解・聴読解(聞いて理解する問題)」55分(200点)で合わせて400点満点となっています。

「読解問題」は、日本語で文章問題と選ぶ答えが書いてあります。

「聴読解問題」は、問題が書いてある本に書かれていることを見ながら、音声で流れる問題に解答します。聴解は、問題も選ぶ答えもすべて音声で流れます。

「記述問題」は、2つ以上のテーマのうちから1つを選んで、指定の文字数で質問に答えます。読解、聴解・聴読解の問題は、すべてマークシート方式です。

〈総合科目〉

80分(200点満点)で、文系の基礎的な学力を測定します。

【出題内容】

日本の高校で学ぶ「公民」「地理」「歴史」を合わせた総合的な科目です。公民は、政治や経済、社会全般に関する科目です。

〈数学〉

80分(200点満点)で、数学の基礎的な学力を測定します。

【出題内容】

文系学部や数学をあまり必要としない理系学部用の「コース1」(基本, Basic)、または数学を高度に必要とする学部用の「コース2」(上級, Advanced)のどちらかを選びます。

〈理科〉

80分(200点満点)で、理系学部での勉強に必要な理科(物理・化学・生物)の基礎的な学力を測定します。

【出題内容】

物理、化学、生物の3教科のうち2教科を選んで受験します。

日本語の試験以外は、受験する言語を日本語と英語から選ぶことができます。しかし、学校によっては、日本語での受験しか出願の条件として認めていないこともあります。だから、希望する学校の試験要項(大学や専門学校の入学試験をうけるときに大切なことを書いたもの)をはじめに確認をしておきましょう。

日本留学試験(EJU)のウェブサイトでは2010年から後の試験問題が公開されています。その他、これまでに出版された試験問題は、日本の中の主要な書店で買うことができます。しっかりと試験の準備をしておきましょう。

※高等教育機関での学びはおおまかに文系と理系に分別されています。総合的な分野や今の社会に合わせた新しい学問では、文系・理系の枠をこえた学びが必要とされます。日本留学試験(EJU)の受験のときには、進学を希望する学校が指定している科目を確認して選びましょう。



文系

法学部や社会学部、国際関係学部など、主に人間の活動を研究の対象とする学問の系統

工学部や理学部、医歯薬学部など、主に自然界を研究の対象とする学問の系統

● 試験対策の方法

①日本語学校の「日本留学試験対策コース」に申し込む

多くの日本語学校では、「日本留学試験(EJU)」の対策を行っています。EJU対策のためだけのコースがある学校と、大学受験のためのコースにEJU対策が入っている学校があります。希望するコースがあるか調べてみましょう。

②問題集を買う

大きな書店や、オンラインショッピングでEJUについての問題集がたくさん売っています。科目ごとに本が分かれていて、1冊につき2,000円ぐらいで買うことができます。ウェブでサンプルページを見られることもあるので、サンプルページを参考にして、自分に合った問題集を見つけましょう。

③模擬試験を受ける

本番を仮定した試験「模擬試験」を、試験当日までに受けることをおすすめします。問題を解くために使う時間や、試験当日のその場の気分などをつかむためにもとても大切です。

どの方法を選んでもよいですが、勉強をするときには、答えが合っているかを確認しておしまいにするのではなく、その問題をなぜまちがえたのかをよく確認して、問題1つずつをよく理解することが大切です。分からなかった問題を、分からないままにしないでください。

● 実施概要と流れ

毎年2回実施されています。第1回は6月、第2回は11月に試験が行われます。

	第1回	第2回
出願	2～3月	7月
受験票受取	5月	10月
試験日	6月	11月
成績通知書受取	7月	12月

試験の実施地

日本の中の17都市と海外の17都市で実施されています。(2022年9月現在)

〈日本〉

北海道、宮城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、石川県(または福井県)、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県(または広島県)、福岡県、高知県、沖縄県

〈海外〉

インド(ニューデリー)、インドネシア(ジャカルタ・スラバヤ)、韓国(ソウル・プサン)、シンガポール、スリランカ(コロンボ)、タイ(バンコク・チェンマイ)、台湾(台北)、フィリピン(マニラ)、ベトナム(ハノイ・ホーチミン)、香港、マレーシア(クアラルンプール)、ミャンマー(ヤンゴン)、モンゴル(ウランバートル)

出願

「出願」は試験を受けるための申し込みをすることです。「オンライン出願」と「郵送出願」の2種類から選べます。試験日より3か月以上前に出願期間が設定されています。忘れずに出願し、受験料の支払いをしましょう。実施地により、選ぶことができる出願方法や受験料がちがうので注意してください。

#### 受験票の受取

(日本で試験を受けるとき)出願方法に関係なく、簡易書留郵便で申込をした住所に受験票が送られてきます。配達員の人から直接受け取りましょう。

#### 成績通知書の受取

出願方法に関わらず、簡易書留郵便で申込をした住所に「成績通知書」が送られてきます。出願をオンラインで行ったときは、オンラインでの成績確認ができます。成績は、志望校を選ぶときの参考にしましょう。

入学試験を受けるときには、EJUの試験を行っているJASSOから直接、大学や専門学校にこの成績が提供されます。

実施会場や年度によって各日程は異なります。必ず実施要項(試験に関する大切なことを書いたもの)を確認しましょう。出願をして、試験を受けて、成績通知書を受け取れるまでには5か月ぐらいかかります。入学を希望する学校の試験に間に合うかどうか、しっかりとスケジュールを確認しておきましょう。

### ● 試験のための費用

2025年度の受験料は以下のとおりです。必ず新しい実施要項を確認し、実施機関へ問い合わせましょう。

〈日本〉

(1科目のみ)10,000円(税込)／(2科目以上)18,000円(税込)

〈海外〉

- ・インド 1,300 ルピー
- ・インドネシア 110,000 ルピア
- ・韓国(1科目のみ)50,000 ウォン／(2科目以上)80,000 ウォン
- ・シンガポール 65 シンガポールドル
- ・スリランカ 1,850 スリランカルピー
- ・タイ 400 バーツ
- ・台湾(1科目のみ)1,500 台湾ドル／(2科目以上)2,000 台湾ドル
- ・フィリピン 750 ペソ
- ・ベトナム 275,000 ドン
- ・香港(1科目のみ)500 香港ドル／(2科目以上)950 香港ドル
- ・マレーシア 90 リンギット
- ・ミャンマー 20 米ドル
- ・モンゴル 50,000 トウグルグ

### ● 成績の有効期間と利用方法

日本留学試験(EJU)の成績は、これまでの4試験分(2年間)有効です。受験回数に制限はありません。入学のための試験に使うことができる成績が複数回分あるときは、どの実施回の

成績を学校に出すのかを自分で選びます。その受験番号を入学を希望する学校に出してください。出した受験番号で受けたEJUの成績がJASSOから希望校に提供されます。

学校により利用できる試験の期限がちがいます。これまでの4試験分すべて利用できる学校もあれば、これまでの1年間の成績だけ受付できる学校などもあるため、希望校に必ず確認しましょう。

### ● 渡日前入学許可

学校によっては、日本留学試験(EJU)を利用した「渡日前入学許可制度」を行っていることがあります。この制度は、日本に来る前に住んでいる国や地域から出願し、入学のための試験結果を受け取ることができるものです。

自国でEJUを受験し、その成績と高等学校の成績などの書類審査で試験の結果が決まるため、入学するまでの間一度も日本に行く必要はありません。一部の学校では、書類審査以外に学校独自の試験をその場所で行っています。

EJUを使った、「渡日前入学許可」を実施している学校はJASSOのウェブサイトで見ることができます。また、一部の学校の渡日前入学許可の合格目安点を発表しています。日本留学試験の合格目安点はあくまで一つの目安のため、くわしくは各学校にお問い合わせください。

### ● 留学生受入れ促進プログラムの予約制度(日本留学試験成績優秀者)

日本留学試験(EJU)の出願時に奨学金の予約申し込みができるものです。EJUで優れた成績を修める必要があります。日本の大学(学部)・短期大学・高等専門学校(第3学年以上)又は専門学校に正規生として新しく入学予定である私費外国人留学生にむけた制度です。

この制度により、奨学金の給付の予約決定を受けた学生は、きめられた期間内に正規生として入学します。入学した学校を通じて、決まった手続きを行うことで、学習奨励費(奨学金)を受け取ることができます。

EJUの試験、留学生のみなさんが日本の学校を受験するにあたって、とても大切な試験です。2回以上受験をすれば、期間内の一番よいと思われるものを選ぶことができます。1回目より2回目の方がよい得点をとれるよう、毎日ががんばりましょう。また、あらかじめ自分の点数を知っておけば、希望校選びの参考にもなります。ゆとりがあれば、ぜひ2回以上受験しておきましょう。

## 「日本語能力試験（JLPT）」を受験する前に知っておきたいこと

日本語能力試験（JLPT）は、日本国際教育支援協会（JEES）と国際交流基金が共同で実施している、日本語を母語としない人の日本語能力を測定、認定する試験です。

日本語能力試験（JLPT）は、日本の学校、主に専門学校での入学試験や、渡日前の日本語能力の確認に利用されます。また、進路の相談や就職、資格取得などの際に、どの程度日本語の能力があるかの目安として用いられることが多い試験です。

### ● 2025年(令和7年)の日本語能力試験

#### 日本語能力試験(第1回)

出願受付期間：3月18日～4月8日

試験日：7月6日

成績発表日：9月中旬

#### 日本語能力試験(第2回)

出願受付期間：8月18日～9月8日

試験日：12月7日

成績発表日：2月中旬

### ● 評価基準

日本語能力試験（JLPT）には5つのレベルがあります。N1が最も難しく、N5が最も易しいレベルです。

N1

幅広い場面で使われる日本語を理解することができる

N2

日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる

N3

日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる

N4

基本的な日本語を理解することができる

N5

基本的な日本語をある程度理解することができる

### ● 出題内容

解答はすべてマークシート方式で行われます。N1からN5までのすべてのレベルで試験内容が異なるため、どのレベルを受験するのかは公式ホームページの練習問題や今通っている学校の先生の意見を参考にして慎重に決めてください。

レベル	試験科目	
N1	言語知識（文字・語彙・文法）／読解（110分）	聴解（55分）
N2	言語知識（文字・語彙・文法）／読解（105分）	聴解（50分）
N3	言語知識（文字・語彙）（30分）／言語知識（文法）／読解（70分）	聴解（40分）
N4	言語知識（文字・語彙）（25分）／言語知識（文法）／読解（55分）	聴解（35分）

N 5	言語知識（文字・語彙）（20分）／言語知識（文法）／読解（40分）	聴解（30分）
-----	-----------------------------------	---------

※2022年12月試験よりN1の「聴解」の試験時間が変更になりました。

日本語能力試験（JLPT）では、総合得点とそれぞれの試験科目での基準点の二つで合否判定を行います。

N1からN5まで、レベルごとに合格点と基準点が設けられていて、日本語能力試験（JLPT）の各レベルに合格するには、総合得点が合格点以上であることと、言語知識・読解・聴解のそれぞれの科目の得点が基準点以上であることのどちらも必要です。

どれだけ総合得点が高くても、基準点を超えない科目が1つでもあれば不合格になります。言語知識・読解・聴解のどれかが苦手分野にならないよう、しっかり対策を立てましょう。

## ● 実施時期

毎年2回実施されており、第1回は7月、第2回は12月に試験が行われます。

	第1回	第2回
出題	3月下旬～4月下旬	8月下旬～9月下旬
受験票受取	6月	11月
試験日	7月	12月
成績通知書受取	9月	1～2月

## 注意事項

※受験の申し込みは、日本国際教育支援協会のウェブサイトから「MyJLPT」の登録・申し込みを行い受験料を支払う方法と、書店等で入手する受験案内（願書）に必要事項を記入・受験料を支払い、受付センターに郵送する方法があります。

※ウェブサイトで申し込みをした場合、受験票や成績通知書は「MyJLPT」の画面で確認することができます。郵送で申込をした場合は、登録した住所に受験票が送られてきます。成績通知書を郵送する場合には、別途費用がかかります。

実施会場や年度によって各日程は異なります。必ず実施要項を確認しましょう。出願から成績を受け取れるまで5カ月程度かかります。希望する学校の試験に間に合うかどうか、入念にスケジュールを確認しておきましょう。

## ● 実施地

日本国内のすべての都道府県に加え、92の国・地域（2022年予定）で実施されます。国・地域によっては第1回、第2回の試験のみ行う場合があります。詳細については各国・地域の実施機関に問い合わせましょう

2022年の実施予定の国・地域は以下の通りです（2022年9月時点）。

### 〈国内〉

47都道府県

### 〈国外〉

東アジア（韓国、中国、モンゴル、台湾）

東南アジア（インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス）

- 南アジア（インド、スリランカ、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、ブータン、モルディブ）
- 大洋州（オーストラリア、ニュージーランド、パプアニューギニア、フィジー、マーシャル諸島）
- 北米（カナダ、アメリカ）
- 中南米（コスタリカ、メキシコ、アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、エルサルバドル、コロンビア、チリ、ドミニカ共和国、トリニダード・トバゴ、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ボリビア）
- 西欧（アイルランド、イタリア、イギリス、オーストリア、オランダ、ギリシャ、スイス、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポルトガル）
- 東欧（アゼルバイジャン、アルメニア、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、ジョージア、スロベニア、セルビア、タジキスタン、チェコ、トルクメニスタン、ハンガリー、ブルガリア、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モルドバ、ルーマニア）
- 中東（イスラエル、イラン、カタール、サウジアラビア、トルコ）
- 北アフリカ（アルジェリア、エジプト、チュニジア、モロッコ）
- アフリカ（ガーナ、ケニア、コートジボワール、コンゴ民主共和国、ベナン、マダガスカル、南アフリカ）

## ● 試験費用

受験料は国内一律 7,500 円（税込）です。（2025 年現在）

海外での受験料については各国・地域の実施機関へ問い合わせてください。

## ● 成績の有効期間と利用方法

日本語能力試験（JLPT）の認定に有効期限はありません。過去の試験結果も無効にはなりません。学校により利用可能な試験の期限を設けている場合があるため、試験要項などで有効期限を個別に確認してください。成績証明書の発行は、受験した場所によって申し込み先が異なります。日本国内で受験した人はウェブサイト登録した「MyJLPT」の画面か、成績証明書申請用 ID から申し込みます。

海外で受験した人は、受験地の実施期間か国際交流基金に問い合わせてください。

成績証明書の発行手数料として、1 部につき 1,000 円かかります。また、海外に送付する場合は、国際スピード便（EMS）料金として 1,000 円が必要です。

成績証明書の発行、配達には時間がかかります。学校への提出期限などを考慮し、スケジュールに余裕をもって申し込みましょう。

## ● 高度人材ポイント制への加算

日本では 2012 年より、日本の市場を専門的・技術的に革新・発展させることが期待できる外国人材を「高度外国人材」とし、受け入れを促進しています。

研究成果や資格の有無などさまざまな能力項目をポイント化し、合計 70 点を超えると高度外国人材と認定され、出入国管理上の優遇措置が受けられます。日本語能力試験（JLPT）もこの項目に該当し、N1 の合格者は 15 ポイント、N2 の合格者は 10 ポイント加算されます。

## ● 国家試験を受験するためには

日本以外の国で取得した医師などの免許保持者が、日本で医師などの国家試験を受験するためには、日本語能力試験（JLPT）NI の認定が必要です。

日本語能力試験（JLPT）NI の認定が受験資格になっているほかの国家試験は下記のとおりです。

歯科医師、看護師、薬剤師、保健師、助産師、診療放射線技師、歯科衛生士、歯科技工士、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、臨床工学技士、義肢装具士、救命救急士、言語聴覚士、獣医師

詳しくは厚生労働省のウェブサイトを確認してください。

また、海外の看護師養成学校を卒業した方が、日本の准看護師の試験を受験する場合にも NI の認定が同様に必要です。

日本語能力試験（JLPT）は、日本の高等教育機関を受験するためだけでなく、卒業後の日本で生活していくうえでも重要になる可能性が高い試験です。試験は年に 2 回しか実施しないため、どのレベルの試験を受けるのが大切です。

